

教育かしま

第65号

電子版は
こちらから

【発行日】
令和8年3月15日
【発行】
鹿嶋市教育委員会
【連絡先】
鹿嶋市教育委員会 総務就学課
TEL0299-82-2911（内線521）



地域の特色ある教育活動を応援し、開かれた教育環境を推進するための情報を掲載していきます

鹿嶋市教育振興基本計画を策定

「第四次鹿嶋市総合計画」が目指す将来像につながる教育施策の方向性を示し、「鹿嶋市教育大綱（令和7年2月改訂）」を具現化するための第Ⅲ期計画を策定しました。

1 教育振興基本計画とは

教育振興基本計画は、法律や国の指針をもとに、鹿嶋市の実情に合わせて定める教育施策に関する基本的な計画です。今回策定した第Ⅲ期鹿嶋市教育振興基本計画は令和17年度までの10年間を計画期間とします。前半5年間の成果や進捗状況、教育環境等の変化を踏まえ、後半5年間の施策について見直しを予定しています。これまでの取り組みを更に磨き上げ、より質の高い教育の実現を目指して計画を深化させていきます。

第Ⅲ期鹿嶋市教育振興基本計画の詳細は
ホームページをご確認ください。▶



2 人生100年時代を生きるための社会教育の推進

公民館や図書館等の生涯学習環境を充実させ、郷土の歴史・文化に触れる機会や、スポーツ・文化芸術活動を推進します。また、青少年の健全育成と家庭教育への支援を強化し地域全体で学びと育ちを支える仕組みをつくりま

〔主な事業〕

- 情報格差（デジタル・ディバイドの解消）等、社会の変化に即応した学習機会の充実
- 学校図書館と公共図書館の連携による、子どもの読書活動の推進
- 史跡や歴史的資料の保存・公開と活用の推進
- スポーツに楽しむ機会、文化芸術に触れる機会の充実
- 地域と連携した親の学びと家庭教育への支援
- メディアリテラシー教育の推進

3 学びを支える教育環境の向上

安心して学べる教育施設の整備と、地域と連携した特色ある学校づくりを進めます。また教職員の資質向上と働き方改革を両立させ、多様な育ちに寄り添う支援体制の充実を図ります。

〔主な事業〕

- ICT教育環境の整備と教育DXの推進
- 学校規模適正化の推進
- いじめ、不登校対策の充実と特別支援教育の推進
- 子ども、保護者教職員の相談・支援体制の充実
- 子どもの安全・安心を守る取り組みの強化

4 これからの時代を生き抜く力の育成

未来を切り拓く資質・能力を養うとともに、優しい心や自己肯定感、挑戦する意欲を育み、時代を生き抜く力を総合的に高めます。

〔主な事業〕

- 自ら課題に向き合い、主体的に課題を解決しようとする姿勢の育成
- 持続可能な社会づくりの担い手を育む教育の推進

2 第Ⅲ期計画の基本方針と主要施策

本計画では鹿嶋市教育大綱が掲げる基本理念『主体的に学び 人とつながり 未来をひらく鹿嶋っ子』を踏まえ、教育大綱と同じ4つの基本方針と具体的な施策を体系化しました。

1 子どもたちが自ら学び考える学校教育の推進

基礎学力の確実な定着と主体的に学ぶ力を育みます。質の高い授業づくりと幼児教育の充実を図るとともに、豊かな心と健やかな体を育て、ふるさと鹿嶋を基盤としたキャリア教育や国際理解教育等を推進します。

〔主な事業〕

- 鹿嶋市授業改善プロジェクトの推進
- ICTの活用した新しい学びの推進
- 義務教育9年間を見通した小中一貫教育の推進
- 健康な心身を育む体育・保健の充実と食育の推進
- SDGs, 多様化, 国際理解教育の推進

第二次鹿嶋市図書館基本計画（令和8年度～令和17年度）を策定しました。

社会環境の変化や利用者ニーズの多様化を踏まえ、資料の貸出に留まらない多様な図書館サービスを維持・向上させていくことを目的に、第二次鹿嶋市図書館基本計画を策定しました。

計画で目指す図書館像は『暮らしの中に図書館を ～市民に身近で役立つ図書館を目指して～』とし、施策体系は右図となります。

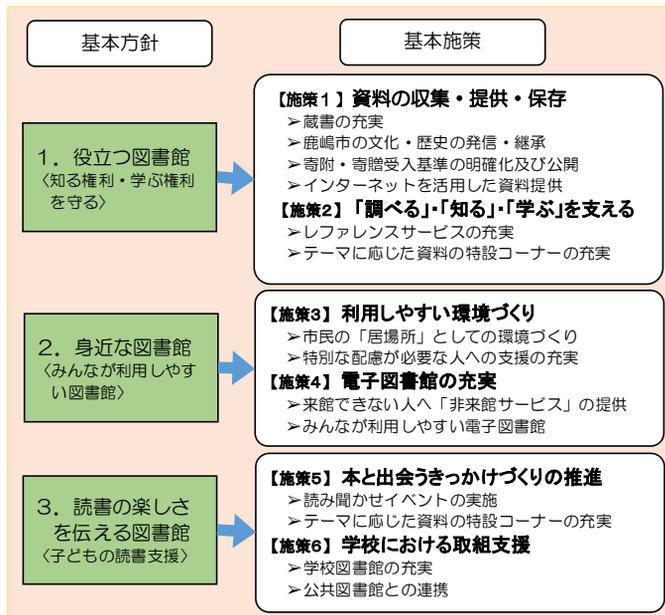
私たちの生活や学び方にも大きな影響を与えている情報社会が進展し、価値観が多様化する現代においては、思考力を養い、表現力や想像力を高める読書活動は、心豊かな暮らしを築いていく上で欠かすことのできない重要なものです。

将来にわたって市民一人ひとりが自らの学びを深め、幸せを実現できるよう、本計画に基づく取組みを推進していきます。

第二次鹿嶋市図書館基本計画の詳細はホームページをご確認ください。▶



【図書館基本計画の施策体系】



ナマダかん



よむっぴ



シカぼん



図書館40周年を記念してネーミングされた図書館キャラもよろしく

授業改善プロジェクト～教師の「教えたいたいこと」を児童生徒の「学びたいこと」へ～

鹿嶋市では、子どもたちが自ら課題を見つけ解決する力を養うため「鹿嶋市授業改善プロジェクト」を推進しています。教師の「教えたいたいこと」を、児童生徒の「学びたい！」へつなげる授業づくりを目指し、市内全ての学校で研究・実践に取り組んでいます。

今年度も小中一貫教育の視点を踏まえ、小学校から中学校までの9年間を見通した「学びの系統性」と教科を横断した広い視点を大切に、中学校区毎に活発な研究が行われました。

国語科（高松・平井中学校区）では榊山敏郎先生（大妻女子大），算数・数学科（大野中学校区）では永田潤一郎先生（文教大），外国語教育（鹿野中学校区）では茨城県鹿行教育事務所の指導主事，情報教育（鹿島中学校区）では平井聡一郎先生（総務省地域情報化アドバイザー）を講師として招聘し、

専門的な指導を受けました。代表校で行われた研究授業では、市内の教員が参加し、専門的な指導をうけ、具体的な授業手法や、新たな知見を共有しました。これらの研究授業では、各中学校区の「プロジェクトコーディネーター」の教員が中心となり、組織的な体制を整え、1つの授業を公開するまでに、校内研修、オンライン会議での協議、プレ授業を行い、ブラッシュアップを繰り返しました。

これらの過程により、研究授業を行う授業者個人のスキルアップだけでなく、学校・中学校区全体の授業力向上を図っています。



▲国語科の研修会（全体会）にて講話をする榊山先生

白熱のタスキリレー！

第48鹿嶋市駅伝大会を開催

令和8年1月18日（日）、第48回鹿嶋市駅伝大会を開催し、全92チームが襷をつなぎました。

当日は好天にも恵まれ、前回大会より参加チームが増え、チーム記録の更新や目標タイムを上回る等、新春の風は熱いものとなりました。

一般男子の部（5区17.5km）は神栖TCチームAが昨年の記録を2分短縮し53分02秒で優勝、中学男子の部（5区12.5km）は初出場の鹿嶋陸上クラブが40分42秒で優勝しました。

▼それぞれの部門の優勝チームのランナーです。



一般男子の部 神栖TC A



一般女子の部 鹿嶋学園高校A



中学男子の部 鹿嶋陸上クラブ



中学女子の部 KATSUTAIYO



小学生の部 TOYO RC



エンジョイの部 マサノリ陸上クラブ

中学女子の部（5区10.0km）はKATSUTAIYOが40分52秒で優勝し、一般女子の部は、鹿嶋学園高校Aチームが43分09秒、新設された小学生の部（5区4.5km）はTOYO RCが15分46秒で優勝しました。

初出場、初優勝の鹿嶋陸上クラブは小学1年～中学3年生約180名が在籍し、土曜の通常練習に加え、競技志向の育成選手向けに平日夜間練習も行っています。今後の活躍が楽しみです。

多くのご支援、ご協力、そして多くのご声援ありがとうございました。

鹿嶋市社会教育・公民館研究集会の開催

令和8年2月1日（日）大野公民館多目的ホールにて「社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくり」をテーマに、令和7年度鹿嶋市社会教育・公民館研究集会を開催しました。

研究集会第1部では（一社）とちぎ市民協働研究会代表理事の廣瀬 隆人（社会教育士・元宇都宮大学教授）氏を迎え「地域づくりと社会教育」という演目での基調講演がありました。社会環境の大きな変化により、地域が担う役割の変化について丁寧な説明の後、「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育」「つながりづくりとしての社会教育」「地域づくりとは人のつながり、知人や友人を増やす活動」等の講話から「公民館がなぜ大切なのか」を改めて考える良い機会となりました。

また、第2部では豊津地区まちづくり委員会より「主な活動」と茨城県教育広報・NIEコンクールにおいて特別賞（R5）、優秀賞（R6）を受賞した



▲研究集会の開会式の様子

「とよつだより」や豊津地区まちづくり委員会20周年記念として発行した「豊津のあゆみ2」の事例発表がありました。

当日は、各地区まちづくり委員はじめ、PTAや教育会、社会教育関係者等274名が参加し、それぞれの視点から社会教育や地域づくり等について考える機会となりました。

なお、研究集会前に「市民・団体表彰式」が行われ、市民の模範になる善行、まちづくりに貢献された13人と4団体が表彰されました。

茨城城郭サミット - 県南・鹿行編 - の開催

令和8年2月14日（土）に高正U&Iセンターホール（鹿嶋勤労文化会館）において茨城城郭サミット - 県南・鹿行編 - が開催されました。

当サミットは「茨城県中世城館跡総合調査」の成果報告会です。中世城館跡について調査した結果、1,135か所の分布が明らかとなったことから、順次調査報告会を開催しています。

今回、県西・県央編、県北編に続き3回目の開催となり、県内外から570名が集まりました。

当日は、調査委員長を務めた茨城大学人文社会科学部の高橋 修教授による記念講演や、各調査員による県南及び鹿行の城郭についての事例報告や研究成果の紹介が行われました。

パネルディスカッションでは「鹿行地域は小規模な城郭が多く集まっている点が特徴的。戦国時代における鹿行地域の領主の在り方をも示しているのでは。」等のコメントがありました。

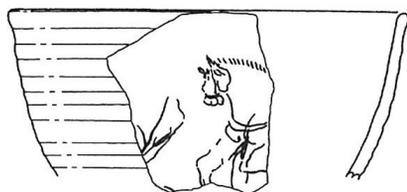
当日の資料等は茨城県の中世城館総合調査事業のホームページへ ▶



▲「塙城跡-常総の内海に築かれた巨大防塁-」報告の様子



▲パネルディスカッション(コーディネーター：高橋教授)



片野遺跡出土「馬の線刻土器」(上)と実測図(下)
(鹿嶋市どきどきセンター所蔵)

今年の干支の午にちなんで、馬の絵が線刻された土器をご紹介します。厨台遺跡群の片野遺跡（現在の緑ヶ丘一丁目付近）から出土した土器器杯の一部で、平安時代の堅穴住居のカマド跡から発見されました。推定口径約20cmの杯の側面に馬の頭と前足付近が細いヘラのようなもので描かれています。結髪のためがみや、胸に鞍を固定するための馬具（胸懸）をつけている様子から、乗馬用として飾られた馬と考えられ

ています。向かって右側の脚をあげて、左側に描かれた木の枝のようなものに近づこうとしている姿でしょうか。小さな破片のために全体の様子は不明ですが、絵巻物に描かれる動物画と同様、躍動感にあふれています。片野遺跡からは、他にも杯の底に「鹿嶋郷長」の文字が墨書きされた土器（墨書土器）も出土しており、当時の鹿島郷（現在の宮中・大船津ほか）の中心的な集落の跡であると考えられています。

鹿嶋の文化財（第十七回） 馬の線刻土器

大きな画像は鹿嶋デジタル博物館へ ▼

